



医療・介護の提供体制の整備について

超高齢化社会を見据え、県民が必要な時に、安心して医療・介護を受けられる、医療・介護の提供体制の早急な整備が望まれている。

育児環境の整備について

一・二歳児までの場合は、途中入園が困難で、働きたくても就業できない。保育士の増員、保育園の拡大と私立保育園に合わせた保育時間等の改善をしていただきたいがどうか。

答

低年齢児保育の充実にき方に対応した取り組みを行っている。平成31年度までに待機児童ゼロを目標に、市町に支援を行っていく。

女性が働き続けられるよう、育児環境の整備と子育て支援に努めたい。

ナースセンター事業について

問

10月から「看護師等の人材確保の促進に関する法律」の改正に伴い、看護職が離職時等に、ナースセンターへ届け出を行う制度が始まった。県としてメディア広報活動の協力や、ナースセンター設備拡充に向けての、財政支援は可能か。

答

来年度以降も、ナースセンターの運営に対する財政支援を行っていくたい。

主権者教育について

問

政治や社会の問題を自分の問題として捉え、自ら考え、自ら判断し、行動していく、高い資質を持った「主権者の育成」が求められている。公職選挙法の一部改正に伴い、来年の夏に行われる参議院議員選挙から、選挙権が18歳以上になる。現在の高校生に対し、主権者としての素養を身に着けさせ

答

国がまとめた副教材「私たちが拓く日本の未来」を活用し、模擬選挙、模擬請願、ディベートによる政策論争を通じて生徒が多面的・多角的に課題を考え、自分なりの考えをつくる力を培う。公共の精神を育み、行動につなげていけるような教育を推進していく。

また、管理職や担当教員が研修を通じ、現実の具体的な政治的事象を取り扱う際の指導方法や実践例を学ぶことで教員の政治的中立性の確保に努めたい。



太陽光発電に伴う景観・環境・防災について

意見

再生可能エネルギーの太陽光発電の推進を望んでいるが、太陽光パネルは永久に使えるもの

せる指導の充実が、喫緊の課題と考えるがどうか。

「森林更新の促進」及び「県産材の需要拡大」

問

林業・木材産業を取り巻く情勢は、原木、製品価格の低迷が長引き、非常に厳しい状態が続いている。県において「杉・桧」を対象とした「低コスト造林」の取り組みが進められているが、「杉・桧」の並材一万円/m²程度と比較し、クスギは二万五千元/m²〜三万円/m²程

答

度と上回り、短期間で収穫できる。更に自然萌芽による更新となり、新たに苗を植える必要がない。クスギを中心とした、広葉樹の植栽が有効と考えるが、県の考えは。

問

全国で桧の生産量がトップであった三重県が、平成25年は「杉・桧」の素材生産量は、全国ワースト三位まで落ち込んだ。素材生産量の増大、県産材の需要拡大に向け、今後どのような政策を展開していくのか。

答

素材生産と需要拡大の両輪で進めていく必要がある。素材生産については路網(林道)の整備、機械化の促進で生産性の向上を高め、低コスト化を図る。需要の拡大については、三重の木をPR、或いは輸出に向けても取り組んでいく。川上から川下まで、一体的な森林施策に取り組むことよって、活性化を図っていききたい。

